



最終特別号

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

最終号 2017年11・12月号

2017年(平成29年)11月15日

連絡給本 アオサギ爺さんの巻 最終回
アオサギ爺さんから、弁天様が心配して下さっている事を聞いたタヌキ親子は、今年一年の無事を感謝して弁天様にお礼に行こうと皆に声をかけました。カワセミやツバ助、カモ次郎にカメ吉達をそろって来ました。弁天様はこの池の平和と池に集う生き物達の幸せをいつまでも守って下さることでしょ。うすさちこ

井の頭自然文化園
資料館特設展「プラタニマ:動物と植物の一年」
春夏秋冬、互いに依存しながら暮らす動物と植物のさまざまな工夫をテーマごとに展示しています。
期間: 2017年6月13日(火)~2018年1月28日(日)

彫刻館特設展「~鳥たちへのおくりもの~谷口高司野鳥原画展」
貴重な野鳥の保護のために各地で取り組んでいる様々な保護活動を紹介しつつ、臨場感あふれる野鳥原画を展示します。
期間: 10月17日(火)~12月3日(日)

井の頭恩賜公園
井の頭100祭「ファイナル開催」

- 10月21日、22日に開催予定していた井の頭100祭は雨天のため中止しましたが、多くの方から再開を望む声をいただきました。その期待にお応えしてワークショップ、ライブイベント、ひやくさいくんとあそぼう等をお楽しみいただく井の頭100祭をファイナルとして開催します。
日時: 11月26日(日) 10:00~15:30(少雨決行)
場所: 井の頭恩賜公園 野外ステージ広場及び井の頭池周辺
●あおぞら実験室(井の頭池付近) 12月3日(日)
●どんぐり広場(三角広場) 12月14日(木)
●グリーンバード(井の頭池付近) 11月26日(日)、12月10日(日) 12月24日(日)
●ザ・忍者(三角広場) 11月23日(木祝)
●ツリーマジック(第二公園) 11月26日(日)、12月23日(土祝)

井の頭かんざつ会
●第151回「紅葉と落ち葉」 11月26日(日) 10:00~12:00
●第152回「師走の野鳥観察」 12月16日(土) 13:00~15:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

第16回 | 級渡邊安浩 のいのけん受験講座

いのけん受験講座最後の問題は、これまでの各検定で最も難しかった問題を取り上げました。みなさんはもうお分かりですね。

- 第2回検定: 「井の頭100祭」のイメージであるこのキャラクターの名前は【 】です。⇒正式名称をひらがなで(正解率6%)
第3回検定: アートマーケットの運営で、5つのキーワードとは、登録制、【 】、アート、賑わい、廉価です。(正解率17%)
第4回検定: 「いさみの広場」では、毎週日曜日に、だれでも自由に参加できる身近ないさみの会を探索イベント「いさみの広場で【 】」を実施しています。(正解率20%)
第5回検定: 井の頭自然文化園オリジナルギフト商品のシリーズに「文化園づくし」がありました。リニューアルをし、現在は「文化園【 】」になりました。ひらがな3文字で(正解率5%)

井の頭恩賜公園 開園100と6周年 11月 12月

アートマーケットとヘブアンアーティストの人々と
井の頭自然文化園の動物たちと飼育員

このコーナーでは、19号まで「アートマーケットとヘブアンアーティストの人々」を、20号以降は「井の頭自然文化園の動物たちと飼育員」をお届けしてきました。この二つの連載、書き手が私だったという以外に、もう一つ共通点がありました。どちらもほとんどは、直撃取材で書いた記事だったんです。

アートマーケットの出展は、お天気や季節によってまちまちです。初めの数回こそ事前に取材を予約していましたが、すぐにその方法は頓挫しました。そこで毎回、私が取材しようと思ったその日に開催しているキャストに、そりりと近づいていってその場で取材交渉。ときにはリレーのように、次の回のキャストを推薦していただくこともありました。

取材者にとっては、直撃取材はビクビクするものです。でも心配は毎回杞憂に終わり、みなさん驚きつつも快く受けてくださいました。パフォーマンスや接客の合間に、出展にかけた想いをたっぷりうかがいました。

キャスト同士の仲が良く、情報交換をしたり、トイレ休憩中に代わりの店番をしたり、という場面をよく見かけました。和やかな雰囲気、週末の井の頭公園にびつたりで、その和やかさに私の取材も支えられていました。

井の頭自然文化園では、飼育員が数種の動物を並行して担当しています。どの動物を取り上げるかは、取材当日に告げられ、私は予備知識なしで取材に臨んでいました。

動物の特徴と、飼育員の日常業務、そして飼育員だから知る動物の習性。この3点を欠かさず尋ねました。おっちょこちょいな動物の一面を語られることが多く、その雰囲気ごと記事にしようと思った。回を重ねるうちに、「この子には面白いネタがあるから」と選んだ理由を明かされたり、「いまの話、面白かったですか?」と確かめられたり。同時に、特性がよく表れる展示の工夫や、動物との存外さばけた関係からは、ペットとはまったく違う、教育施設での飼育の姿勢を学びました。

多面的に雄弁に話ってくださいました飼育員さんとの共同作業によって、井の頭らしい動物記を綴ることができたのではないかと思っています。

小田原 澗 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

はな子といのきちさん

創刊号(2011年11月1日発行)から連載を続けてきた「今月のはな子」。私は人事異動で途中からかわって来ました。「いのきちさん」は公園開園100周年カウントダウンの期間限定の新聞と聞いており、だったら、この連載も、公園開園100年、井の頭自然文化園75年、はな子70歳というそれぞれの節目を迎えると同時に幕を閉じるのかなと想像していました。

残念ながら、はな子だけは2016年5月26日、69歳で、連載よりちょっと先に幕を閉じてしまい、公園開園100周年を祝うことはできませんでしたが、28号までのバックナンバーを読むと、穏やかな毎日を過ごしながらも、いろいろなことがあったなと思ひ返されます。

普通、動物園で飼育されている動物は、給餌量や体調や行動といった、動物管理上の記録が中心で、この「いのきちさん」の連載のような、人と動物をつなぐようなコラムを持つことはほとんどありません。そういった意味で、これらの記事は、はな子の晩年を記録する貴重な資料です。最終号を迎えるにあたり、ぜひ、創刊号から読み返していただき、はな子のことを思い出していただければと思います。

(井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉)



2007年3月に撮影。

解いてみたい糸口は、いくつも残っています。読者のみなさんの中にも、未知の物語を探っている方もいらっしゃるのではないでしょうか。郷土史の楽しみを、いつか共有する機会ができますように。

上の写真は、ガイドブックを作成中に撮ったもので、子どもたちは今は高校生くらい年の頃になっているでしょうか。世代を超えて、より緑濃い公園となり、より澄んだ池となっていくことを望みつつ、最終号の筆を置きます。

安田知代

安田知代(あした ちよ) 編集者・ライター。井の頭公園*まるごとガイドブック「編者の百年寺田昭和の40年」編者。



2016年9月発行「井の頭公園*まるごとガイドブック改訂版」

創刊号から、歴史の話題を紡いできました。読んでくださったみなさま、取材や資料の提供にご協力くださったみなさま、このような機会をくださった株式会社文伸の川井信良さんへ心から感謝いたします。

最終回は、郷土史をたどる楽しさに誘ってくれた井の頭公園への私的な思いを綴らせていただきます。

徳川家康がここで茶をたてたって、本当? 石打籠に名前が刻まれている人々は、いったい何者? 桜が植えられたのはいつ? ...あれこれ気になり、「調べて本を作りた〜」と考えるようになり、約2年の年月を費やして形になったのが「井の頭公園*まるごとガイドブック」(2007年ぶんしん出版発行)でした。

公園の歴史を調べる過程では、図書館で資料を探し、地域の古老に話を聞き、郷土史講座にも参加しました。古い資料や図版があると聞けば、市外の博物館や資料館にも行きました。そうするうちに、公園で見つけた謎の数々は、教科書で学んだ大きな歴史と地域の郷土史の結び目のように感じられるようになりまし。渋沢栄一のような歴史的人物だけでなく、周辺の人々の環境保全への尽力があったこそ、今の緑豊かな公園の姿がある。結び目を解きながら、心を動かされたことがたくさんありました。

「かいぼり25」と「かいぼり27」では、地域の団体、多くの市民、研究機関、東京都西部公園緑地事務所が、池の自然再生への思いを一つに、力を合わせました。そしていよいよ100周年目の記念すべき「かいぼり29」が、間近となりました。冬季から水を抜き、在来種の保護と外来種の駆除を行い、春の桜の頃に水を戻す予定で準備が進んでいます。1月以降の池の干し上げ期間には、池底観察ツアーや楽しく学べる企画もあるとのこと。待ち遠しいですね。

2回のかいぼりによる相乗効果や、日常的に継続されている外来種の駆除活動によって、水質の改善、在来生物の回復、水草の再生に大きな効果が表れ、今回の成果にも注目です。今後も定期的にかいぼりを実施していきたいという強い思いも、広がっています。一人ひとりが、活動したり応援したり、力を合わせていきたいですね。



雨の日の井の頭かいぼり隊

生態系の中のヒト
井の頭池の周りには旧石器時代からヒトが暮らしていたそうです。清らかな湧き水を飲むだけでなく、池の魚を捕り、水を求めて来る動物を狩っていたのでしょう。まだヒトと生き物の力の差はわずかで、ヒトは生態系のほんの一部にすぎませんでした。しかしヒトには、知識を蓄え技術を発達させて、自分たちに都合がよいように環境を作り変えていける高い知能がすでに備わっていました。豊富な湧水を江戸の街の上水に利用していた江戸時代には、堆積物で浅くなった井の

この連載中に二度の「かいぼり」が実現し、井の頭池は多くのヒナが誕生する池に変わりました。では、親元から旅立っていった若鳥はどこへ行くのでしょうか。湖、大きな川や池など、縄張り争いが無い場所。他の若鳥などと一緒に最初の冬を越すのだと思います。しかし次の年には、それぞれが子育ての相手を見つけ、縄張りを確保しなければなりません。残念なことに、かつての井の頭池と同様な問題をかかえた池が多く、子育てできる場所が全国的に不足しています。かいぼり後の井の頭池にたちまち何組ものカップルが飛来したのがその証拠です。

カイツブリが世帯をつないでいけるように、子育てできる場所が井の頭池以外にも増えることが必要です。水中は簡単には見えませんが、カイツブリが子育てをしているのは、小魚やエビが十分いる証で、その生態系がある程度良好な証です。カイツブリがいる昔ながらの風景が多く、池や川や湖で復活してほしいと思います。

飛行練習する若鳥

井の頭かんざつ会 田中 利秋 http://tnt-lab.eco.cocan.jp/

頭池の池ざらい(浚渫)も行われたそうです。まだ機械力がなかった時代ですが、組織力はすでに高かったのです。明治以降は技術革新が加速し、ヒトは環境を大きく変えるようになります。とりわけ戦後の高度成長期には急速かつ大規模に改変が進みました。進歩を求めるあまり、自然環境やそこで暮らす生き物への配慮がおろそかになった時代でした。井の頭公園は市街地にかろうじて残った緑地となり、湧水は濁れて池の水が濁り、持ち込まれた外来生物が在来生物を減らしました。ヒトの知能は未来を正確に見通せるほど優れてはいないのです。それでも、問題に気づき、反省し、やり方を変えることはできます。井の頭公園でも、池の問題を解決するための官民協働の体制が実現しています。今後は池以外の問題にも取り組みが広がることでしょう。自然環境とそこに暮らす生き物を考える場合、それらが複雑に関係し合う「生態系」としてとらえることが必要です。そのとき大事なのは、その生態系にヒトを含めることです。数が増え、大昔と比べるとはるかに大きな力を持つようになったヒトの行動が、他の生き物たちの生存や生活を左右するからです。そもそも、ヒトがいなければ環境問題も外来生物問題も存在しません。多様な生き物たちとの共存を望み、そのような生態系を実現するために多くの人たちが常に活躍している井の頭公園になることを願っています。

発掘された石器

37 若鳥の行き先

「楽園はよみがえるか! カイツブリ道場」
カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

よみがえれ! 井の頭池 37

未来への道筋をつける、100周年目のかいぼり本番間近!

7月、かいぼり隊に加わった個性豊かな新メンバー20名の活躍にも期待!



写真 古賀親宗 (こがもとのり)
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

いのきちゃん 創刊号〜37号最終号(までの連載)を見て一覧

号	発行日	連載絵本	井の頭恩賜公園の歩み	私と井の頭公園	よみがえれ! 井の頭池	井の頭公園の生き物たち	カイツブリ通信	アートマーケットとヘブアンアーティストな人々	今月のはな子
創刊号	2011年11月1日	コイ太郎の巻 その1	江戸っ子たちの水道だった神田上水。そして、井の頭池は神聖な水源だった。	二度助けられた井の頭公園 (川井信良 / 株式会社文伸 代表取締役社長)	具体的な池の浄化プランが百周年に向けて始動!	モツゴ (オスが卵を懸命に守る)	池の中を映す鏡	キン・シオタニさん (イラストレーター・詩人)	今年64歳 日本最高齢で元気に過ごしています
2号	2012年1月1日	コイ太郎の巻 その2	池の名づけ頭は、三代将軍家光だった!?	針葉樹がうつそう 深山幽谷の様相 (鈴木育男 / 株式会社からんスタジオ 取締役会長)	在来種の魚たちがひょうたん池にお引越し!	オナガガモ (幽庵庭愛 買いカモ)	冬のカイツブリ	ブルームダスター・カンさん (ブルースシンガー)	はな子の寒さ対策
3号	3月1日	コイ太郎の巻 その3	滅びゆく「水屋」が伝えたかったものは?	池の水を撒いたら道路がピンクに染まったの (富岡俊子 / 七井橋たもとにある 花見茶屋 水月 店主)	いよいよ始まる! 「かいぼり」の準備	コガモ (コガモたちが戻って来てくれる公園に)	春近し	bagworm さん (筆路・華小物作家) hinagiku* さん (アフセサリー作家)	はな子が65歳 日本の長寿記録に並ぶ
4号	5月1日	井の頭自然文化園開園70周年記念号	「動物園」ではなく「自然文化園」それは訳があるのです。	井の頭自然文化園の資料館開館に協力した小学5年生たち (須田孫七 / 東京大学総合研究博物館研究事業協力者)	「かいぼり」の実施で元来の生態系を復元しよう!	ミソゴイ (自然文化園に来る野生動物)	満腹と腹ペコ	北村直子さん (動物園のデザイナー)	はな子の春
5号	7月1日	コイ太郎の巻 その5	池で泳いで涼をとる。そんな時代がありました。	58年前の「ミス井之頭」と老カメラマンの再会近し (土屋 尚 / カメラマン)	気運高まる池の水質浄化。熱意ある人々が継続的に支援しています。	ソウギョ (背びれに注目! 「巨大な鱈」は草魚か)	メスとオスの違い	Mr.Dai さん (大道芸人)	梅雨が明けたら水浴びできるといいな♪
6号	9月1日	コイ太郎の巻 その6	池の小島にある井の頭弁天堂。江戸っ子の信仰心をも伝えていきます	「ミス井之頭」から波乱に富んだ人生が (加藤幸代 / 元ミス井の頭)	ひょうたん池の在来種をみんなで守ろう!	トチノキ (人もも操るトチの実の威力)	見限られた池	ともぞう本舗さん (手ぬぐい作家)	現在の心配事は便秘
7号	11月1日	コイ太郎の巻 その7	公園脇の小さな駅で、昭和初期にタイムトリップ!	松本訓導は私の伯父 なぜか三鷹にご縁が (松本吉見 / 松本虎雄氏の甥)	かいぼり計画の目標は、多様な生物が水を浄化する池	ソメイヨシノ (起死回生の「回生根」)	歴史は夜作られる	ピカさん (顔面紙芝居)	季節の変わり目
8号	2013年1月1日	コイ太郎の巻 最終回	地元元の昭和の記録が、地域の記憶を次世代につなぐ。	「自然林を後世に残すのが我々の義務」地域住民の力で公園となった第二公園 (大竹 茂 / 元みどり書房店主・元井の頭町会副会長・元井の頭住民協議会事務局長)	かいぼり計画の目標は、多様な生物が水を浄化する池	ツグミ (代表的冬鳥)	善福寺池	sorahug さん (サンキャッチャー作家)	高齢はな子は寒さが大敵
9号	3月1日	カメ吉の巻 その1	江戸時代の井の頭、桜の花は咲いていた?	ジョギングと犬の散歩とゴミ拾い一石三鳥と言う元世界チャンピオン (輪島功一 / 元プロボクシング WBA・WBC スーパーウェルター級世界チャンピオン、現在 輪島功一スポーツジム会長)	地域の人たちの連携で「かいぼり」計画を検討	タンポポ (在来種の生える場所)	新天地を求めて	ちーちゃんさん (人形劇)	“はな子”66歳のお祝い会
10号	5月1日	カメ吉の巻 その2	十二年に一度の巳年の御開帳、これまでにない大盛況!	平凡な主婦を変えた顔や風景 (大原正子 / 井の頭かんざつ会事務局長)	「かいぼり」2回目の検討会開催 目標めざして協働が始動!	オオクチバシ (悪者人間)	たのみのつばさ	高橋弘美さん (生き物雑貨制作)	はな子ライブ?
11号	7月1日	カメ吉の巻 その3	伝説の「宇賀神像」が、弁天堂脇に引越してきた!	清水の復活こそ根本的改善 (杉田 昇 / 東京吉祥寺ライオンズクラブ元会長)	広い視野での検討・準備が着々と進んでいます	ブルーギル (ワースト・コンビネーション)	淋しい池	SANA さん (アーティスト・イラストレーター)	一年で一番良い季節を迎えています
12号	9月1日	カメ吉の巻 その4	公園の観察記録から大正時代の世相を読み取る!	暮らしを大切に自然が残されている幸せ (高橋 真 / 井の頭かんざつ会会員)	暮らしを大切に自然が残されている幸せ	コイ (じつはよく知らない魚)	静心の楽園	徳山さみあきさん (イラストレーター)	はな子の夏
13号	11月1日	カメ吉の巻 最終回	武蔵野の水と自然。脈々と語り継ぎ、行動しよう!	「やっぱりデザイナーが常駐しているといいよね」(北村直子 / 井の頭自然文化園専属デザイナー)	「かいぼり」の実践、いよいよスタート!	ゴイサギ (夜が一番)	がまんの時	伊藤ハムスターさん (イラストレーター)	サボリースデーのはな子
14号	2014年1月1日	カモ次郎の巻 その1	水がきれいな池ってどんな池?	自然が創った大変貴重で尊い池 (片岡友美 / 認定NPO法人 生態工房理事)	歴史的な「かいぼり」、目が離せません!	ミシジップアカミミガメ (捨てられたカメ)	新たな出会い	DOG BRUNA さん (ペットの帽子作家)	冬のはな子
15号	3月1日	かいぼり特集	28年前の水抜きは、地底の泥を除去するためだった	みんなで楽しく気長に続けていくことが大切 (田中淳一 / 現在・公益財団法人東京都公園協会勤務)	初の試みを検証し、次回以降に活かそう!	ニホンイシガメ (最大の朗報)	かいぼりの影響	Allen's Craftさん (真鍮のパンフル作家)	はな子67歳のお祝い会 〜今年のケーキは「あんまん」〜
16号	5月1日	カモ次郎の巻 その3	井の頭恩賜公園の「恩賜」って何?	いのけん公式問題を全てノートに書き写し学びました (渡邊安浩 / 井の頭公園検定1級認定者)	その後のモニタリング、継続して実施中!	ユスリカ (小さな虫の大きな仕事)	虫でできた卵	paper trip さん (切り絵作家)	春のはな子
17号	7月1日	カモ次郎の巻 その4	井の頭公園の歴史に洗足栄一足跡あり	辛うじて残っている自然を守りたい (高野 文 / 写真家・編集者)	井の頭池に、在来魚がぐんぐん増えている!	アメリカザリガニ (手ごわい人気者)	朗報と悲報	宮里悦次さん (針金ゴム鉄砲作家)	大島からの訪問団
18号	9月1日	カモ次郎の巻 その5	井の頭池のポート、時代の変遷をたどる	はな子は自然の畏怖を教えてくれる象徴 (室伏三喜男 / 東京都井の頭自然文化園 飼育展示係主任)	「かいぼり」隊、定点観測を継続中!	水草 (藍きの復活)	楽園に暗雲	つぶつぶ屋コトヤマ堂さん (つぶつぶ小物作家)	はな子の夏対策〜今年はず桃缶〜
19号	11月1日	カモ次郎の巻 最終回	古い絵巻書に写る舟は、「ハリガネワタシ」?	大好きな井の頭公園の連載絵本はうれしい仕事 (瀬能幸子 / 絵本作家)	水生植物の種類が休眠から覚めた!	ナマズ (ギギとの明暗)	楽園崩壊	Happy Elephant さん (イラストレーター/アフセサリー作家)	はな子の冬支度
20号	2015年1月1日	カワセミのミドリ巻 その1	開園当時の池周辺は、杉の美しさが際立っていた	「いきもの広場」は僕のやりたかったこと (成島悦雄 / 東京都井の頭自然文化園 園長)	かいぼり隊、三ツ池でスキルアップ!	キンクワハジロ (池が変わるとカモも変わる)	定住者と滞在者	井の頭自然文化園の動物たちと飼育員	はな子のいたずら
21号	3月1日	カワセミのミドリ巻 その2	小金井と井の頭、上水沿いの花の行楽	ここが東京とは信じられない (Robert Nappa / 英語教師)	水草の講習会や自主研修で学びを深める「かいぼり隊」	カルガモ (渡りをしない利点)	環境は自分で作れ	ツシヤマネコと佐々木真一さん	はな子68歳のお祝い会
22号	5月1日	カワセミのミドリ巻 その3	「江戸名所図会」ってどんな本?	昭和十年代の井の頭公園の写真があるけど… (徳田 薫 / 徳田東助氏子息)	「かいぼり」隊、新年度もいきいきと活動をスタート!	エゴツクビオトシブミ (自然からの手紙)	カッパもいろいろ	タガメと渡辺良平さん	はな子の足音
23号	7月1日	カワセミのミドリ巻 最終回	時代を超えて語り継がれる「井之頭音頭」	夏の夜は弁天様からお稲荷さんまで泳ぐんです (若崎菊男 / 井之頭町会会長)	かいぼり25から1年半、池の透明度がぐんぐんアップ! ※23号には、かいぼり23となっています(25)が正しい	クサガメ (微妙な立場)	変則!	オリオオコウモリと田口貞隆さん	運動場の鐘を鳴らすのは?
24号	9月1日	カイツブリのツツ助巻 その1	「日本橋」の石灯籠、寄進したのは何者?	100周年を機に、歴史的資料の展示もやりたいです (安田知代 / 合同会社いとへん共同代表)	かいぼり隊に新人加入! 夏から活動開始しています	カラス (2種のカラスと、人間が変えた暮らし)	弱ふたたび	ニホンリスと高松美香子さん	東洋医学の知恵?
25号	11月1日	カイツブリのツツ助巻 その2	江戸っ子好みの紫染めと井の頭池との深い縁	いのけん1級「チームあか井」旗揚げ (若崎孝子/チームあか井の)	井の頭かいぼり隊、アウェイでも大活躍!	トキワツクサ (11×1運動) 開始!	春を待つ冬	タンチョウと野本寛二さん	はな子の寒さ対策
26号	2016年1月1日	カイツブリのツツ助巻 その3	自然文化園の彫刻園は「平和祈念像」の生地	この公園は春と秋がいいですね (宮地泰隆 / ブルースカイコービー代表)	いよいよスタート。「かいぼり27」に注目!	ウキゴリ (絶滅か、復活か)	カイツブリの眼	アジアソウと宮路良一さん	69歳になったはな子
27号	3月1日	かいぼり27特集	斜面に描かれた花々は桜か?梅か?	いつかは社会貢献者、と参加。「新鮮です」(山口弘行 / 井の頭かいぼり隊)	のべ400名が大活躍! 歴史に残る「スペシャル2days」	ユリカモメ (幽庵庭愛、東京都鳥)	カイツブリはどこへ?	ツシヤマネコと唐沢理樹さん	足の裏の手入れは「はな子」次第
28号	5月1日	子狸ボン太の巻 その1	清らかな湧水が昔と今を語るつとなく	保水力抜群のこの観下を使ってください (阿部一品・阿部昌子 / シーズン店主)	充実の「かいぼり27 だより」で 現場感たっぷり振り返ろう!	クロガハゼ (最近名前が変わったハゼ)	楽園ふたたび	アカガザルと久保田夕紀子さん	春の味覚
29号	7月1日	はな子追悼特別号	子狸ボン太の巻 その2	はな子さん ごめんない (鈴木啓子 / NPO法人あきる野さやま自然塾 塾務)	魚、水鳥、トンボ、水草などモニタリング継続中!	カラスワリ (魅力的な「雑草」)	ベビーラッシュ		はな子追悼特別号 (はな子2016年5月26日死亡 69歳)
30号	9月1日	子狸ボン太の巻 その3	戦争の傷跡をそっと見せてくれる木々	都市の自然再生モデルとして注目 (内山 香 / 東京都西部公園緑地事務所 工事課 課長代理)	絶滅危惧種の水車、かいぼりで復活!	きのこ (菌類) (緑の下の力持ち)	たくさんの敵	タヌキと大西一馬さん	資料館特設展示「アジアソウはな子の69年」
31号	11月1日	子狸ボン太の巻 その4	玉川上水と緑道は、昔の人たちからの贈り物	江戸幕府の生命線だったことを誇りに (友野智子 / 友野国際特許事務所 所員、世界遺産アカデミー認定講師)	春からスタートしたトンボ調査。何が起きてくるでしょうか?	アカシデ (高齢木の魅力と悩み)	離れたい池	モルモットと堀井葉子さん	はな子の記録と記憶を残す2つの取り組み
32号	2017年1月1日	子狸ボン太の巻 最終回	幕末の石灯籠が、弁天様の遠くにも!	自然観察ができる井の頭公園は大変貴重 (田中利秋 / 井の頭かんざつ会代表)	100周年の年明けに、充実の「かいぼり報告会」開催!!	ハシロガモ (いない理由)	ちょうどい教	ネズミと浅見律一さん	アジアソウはな子の銅像、原型完成
33号	3月1日	アオサギ爺さんの巻 その1	時代を超えて続く弁天さんの春の例大祭	戦時中 水族館でメダカを増やし防火用水のボウフラ退治 (須田孫七 / 東京大学総合研究博物館研究事業協力者)	たくさんの人の知恵と力が報告会で結集!	テナガエビとスズエビ (復活する在来エビ)	春の光し	オシドリと高橋孝太郎さん	
34号	5月1日	井の頭恩賜公園開園100周年特別号	公園は、過去からの贈り物 (井の頭公園100年の年表)	ひとこと特集 (前)	大忙しの「かいぼり」隊、イベントでは体験会も!	キランソウ (土中に眠る歴史)	離れの池	オオサンショウウオと木船宗司さん	特設展「アジアソウはな子69年」の終了とゾウ舎での展示
35号	7月1日	アオサギ爺さんの巻 その3	幕末の井の頭の風景から、幕府の森林政策が見えてくる。	ひとこと特集 (後)	かいぼりの活動が、水環境保全活動特別賞を受賞!	ブランクトン (注目すべき微小生物)	見守る人々	ツクシガモと東條裕子さん	
36号	9月1日	アオサギ爺さんの巻 その4	出版物も続々の100周年。あなたのトリアを発見しよう!	「生き物は面白い」と感じていただけるかが誇り (馬島 洋 / 公益財団法人東京動物園協会 井の頭自然文化園動物解説員)	冬の本番に向けて、かいぼり隊に新メンバー加入!	アブラコウモリ (コウモリが消えた)	カイツブリが近いわけ	ホンドギツネと森 理生さん	彫刻館のアジアソウはな子の銅像原型
37号	11月15日	最終特別号	井の頭公園の風情から、歴史の裏に隠された物語を見つけよう!		未来への道筋をつける。100周年目のかいぼり本番開始!	ヒト (生態系の中のヒト)	若鳥の行き先	アートマーケットとヘブアンアーティストな人々 井の頭自然文化園の動物たちと飼育員	はな子といのきちゃん

(全号いのきちゃんホームページに掲載しています)

「いのきちゃん」は、三鷹にある印刷・出版業の株式会社文伸が、創業50周年記念事業として発行したフリーペーパーです。井の頭公園が2017年5月に開園100周年を迎えるまで、近隣の方々に公園の歴史や文化、生き物たちのことを伝えていき、公園の魅力と、そのかけがえのない存在を改めて共有することを目的としました。2011年11月に創刊号を発行し、100周年の2017年5月までの期限のカウントダウン新聞でしたが、少しオーバーして2017年11月の37号で最終号となりました。長いようで短かった6年間でしたが、井の頭公園を愛する人々の行動が大きく前進した時期に出会い、その様子を僅かですがお伝えできたことを幸せと思つています。特に、公園の恩恵にあずかる市民が、独自で、あるいは管理する東京都や三鷹市・武蔵野市と協働して、公園の再生に取り組んだり魅力を高めたりする仕組みを創り上げたことは、100年の歴史の中で初めての画期的なことでした。そんな明るさを感じながらの最終号となりましたが、井の頭公園を愛する多くの読者に励まされながら無事継続できたことを、編集スタッフ及び文伸の社員を代表して心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

2017年11月吉日
いのきちゃん編集長
株式会社文伸 代表取締役社長 川井信良

古賀親宗

読者の皆さん、暖かで見守って頂き本当に有難うございました。井の頭公園ファンとして、これからもシャッターを押続けたい。さあ、一緒に井の頭恩賜公園を楽しみましょう。

渡邊安浩

第18号から「いのけん受験講座」を担当させていただきました。1級試験に相応しい問題選択と検定試験のご案内に心がけました。試験にチャレンジされた方へお役に立てましたでしょうか? 来年1月には最後の試験がありますので、是非もう一度過去の問題をお渡ししておいて下さい。いつか井の頭公園でお会いしましょう。

瀬能さちこ

いのきちゃんを終えて人と話をする事が苦手な私が、いのきちゃんの編集会議に出て行けるようになったのは、大きな自分の進歩になりました。何とか37回続けたのは、メンバーのアドバイスや応援を戴いたお陰です。ありがとうございました。(さちこ)

お話を1300〜1400字にまとめることは、選りすぐりの身には少々悩みの種でした。(けい子)

小田原澤

創刊時の私は井の頭公園初心者でした。ふらりと寄って散歩し、ちょっと公園に詳しくなっていく。週末に公園を訪れる多くの方々と同じようなスタンスで、取材を楽しみました。ツウでもツウじゃなくても、多様なかわり方が詰まっている井の頭公園。親しみづかけをいただきたいのきちゃんに感謝しています。

安田知代

100周年の節目に、さまざまな活動やイベントが展開され、いくつもの出版物が誕生しました。「かいぼり」という市民と行政の画期的な連携は、より良い未来を開く新しい潮流だと感じます。6年間、その貴重な流れをお伝えし、公園の歴史のあれこれをお伝えしていただいたことは、私にとって幸わせなことでした。目を凝らせば、古来の自然と人の暮らしの跡跡や、戦争の傷跡も見えてくる。そして生きている私たちのアフラソウも、そこに刻まれていくのです。これからも、広い視野で考え、地域の宝を大切にしていって一助になれば幸いです。

田中利秋

生き物を詳しく観察して暮らしを知り、自然のしくみを学ぶには、身近な自然のほうにむしる適しています。種類は第1級の自然には及びませんが、井の頭公園にも多様な生き物が暮らし、自然の原理がしっかりと働いています。人間の影響がよく分かるのもよい点です。連載に問題点も書いてきたのは、もって生き物たちが暮らしやすい場所になってほしいからです。連載は終わりますが、生き物たちのドラマは終わりません。今後も生き物観察を楽しんでください。そして、井の頭公園をさらに良くする力になつただけは嬉しいですね。

●私と井の頭公園

●いのきちゃん最終号です。

●1級渡邊安浩のいのけん受験講座

●アートマーケットとヘブアンアーティストな人々

●よみがえれ! 井の頭池

●井の頭公園の生き物たち

●カイツブリ通信

●井の頭公園の生き物たち

●カイツブリ通信

井の頭公園開園100周年を祝して 待望の2冊刊行

井の頭公園100年写真集

2,800円+税

日本で初めての郊外公園として誕生した井の頭公園の100年の変遷をご紹介します。

2017 5/1 発売

井の頭公園 いきもの図鑑

1,600円+税

井の頭公園にこんなに生きものがいるなんて! 自然好き、生きもの好き、井の頭公園好き必携の一冊。

お問い合わせ ぶんしん出版 ☎0422-60-2211

吉祥寺・三鷹の書店にて 販売中!!

この印刷製品は、環境に配慮した原料と生産工程で製造されています。

VEGETABLE INK

1230

1級渡邊安浩のいのけん受験講座答え合わせ 第2回: ひやくさいくん 第3回: 手作り 第4回: あそぼう、遊ぼう 第5回: びより